

2018.05.25.

## 理事長挨拶【尹 浩信(熊本大学大学院皮膚病態治療再建学分野)】

今年度の日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会(7月6日~7月7日)は浜松で開催されます。戸倉会長をはじめ浜松医科大学皮膚科学講座の皆様には大きなご負担をおかけしますが、どうぞよろしくお願い致します。

今年度の学会は海外からの招待者も多く、また様々な診療科の方が参加されるようで、幅広く皮膚悪性腫瘍に関して学び、議論できる場になるのではないかと期待しております。皮膚悪性腫瘍に関する基礎研究、臨床研究の一般演題も増えたと伺っております。好ましい傾向であると考えております。日本皮膚悪性腫瘍学会賞も認知され、毎年皮膚悪性腫瘍に関する優れた論文を表彰できるようになりましたので、今年度の学術大会では初日の昼の参加者が多い時間帯にplenaryで講演していただくようお願いしております。

昨年度の学術大会後に役員が一新し、新しい体制で学会運営が行われています。私が理事長に就任したため、事務局が熊本大学大学院皮膚病態治療再建学分野に移りました。慣れない点も多いのですが、会員の皆様にご迷惑がかかることがないよう誠意をもって努力しております。

学会活動としては、加藤先生を委員長とする皮膚がん予後統計委員会では、新しい臨床研究の指針に基づいて、皮膚悪性腫瘍に関する調査を続け、貴重なデータを蓄積しています。皮膚付属器腫瘍に関する調査も安齋先生を中心とするワーキンググループが進めています。皮膚悪性腫瘍診療ガイドラインの改訂も菅谷先生を委員長とする委員会によって順調に進んでいます。

今後とも日本皮膚悪性腫瘍学会は若手医師の皮膚悪性腫瘍に関する教育を展開し、皮膚悪性腫瘍に対する治療水準の向上に貢献するとともに、国民の福祉に貢献し、これらに携わる医師の研究の向上を図ることにより、皮膚悪性腫瘍の診療に関する学術及び技術の振興並びに公衆衛生の向上に寄与していきたいと考えております。皆様のご協力をよろしくお願い致します。



韓国の皮膚科医の方々との機会を利用し、さらに一同に会して交流を深めたいと思います。

韓国の方々には皮膚腫瘍に対してどんな考えをもち、どんな医療を行っているかは謎の部分もあります。そこで「日韓コラボ」を企画しました。また病理、放射線科を始めとする他科の先生方には日々お世話になっており、「他科コラボ」も同時に行うことにしました。「日韓コラボ」に關しましては幸い、JSCSに対応する韓国の Korean Society for Skin Cancer (KSSC) の全面的な協力が得られ、7名の講演者と数名の座長をご紹介頂きました。日本からもそれぞれ対応するテーマで7名の方々にご講演頂き、シンポジウムを行う予定です。「他科コラボ」につきましては、放射線科や病理など皮膚悪性腫瘍を日常診療として扱ってられる先生方にご発表頂きます。メラノーマを始めとして、治療上の進歩は目覚ましいものがあります。それと同時に薬剤の使用経験が蓄積され、様々な問題が集約化されてきています。実臨床から免疫学的なメカニズムまで問題を整理し、集中的に討論するシンポジウムも設けます。

浜松医大皮膚科は皮膚リンフオーマの臨床・研究を行ってきましたので、この分野も充実させます。しかし何と云っても本学会の重要なプログラムは一般演題です。多くの演題をお寄せ頂き、感謝致しております。最後に、第2回「デルマトオーケストラ」演奏会を金曜日の懇親会前に催します。団員一同素晴らしい演奏会になるよう、練習を重ね、神経を集中させています。

**第34回 日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会**  
The 34th Annual Meeting of the Japanese Skin Cancer Society

**日韓コラボ・他科コラボ**  
Collaboration with Korean Dermatologists and Other Departments

2018年 **7月6日(金)~7日(土)**  
July 6(Fri) - 7(Sat), 2018

会場 **アクトシティ浜松**  
ACTCITY HAMAMATSU

会長 **戸倉 新樹** (浜松医科大学 教授)  
Yoshiaki Tokura

事務局長 **島内 隆寿** (皮膚科 准教授)  
Takashi Shimomachi

http://www.congre.co.jp/jscs34/

一般演題登録期間  
2018年 1月16日(日)~2月21日(日)

## 第34回学術大会の御案内



戸倉新樹  
浜松医科大学皮膚科学

この度、学術大会を、浜松市で担当させて頂くことになりました。テーマは「日韓コラボ・他科コラボ」としました。

**第2回 デルマトオーケストラ演奏会**

第34回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会付設  
全国の皮膚科医を中心としたニッチな演奏者の集団

入場無料

プログラム 交響曲第2番ニ長調Op. 73  
Dermato-Orchestra

2018年 **7月6日(金)**  
開演 18:00 (開場 17:40)

アクトシティ浜松 B1 中ホール  
J浜松駅前ビル (浜松市-05) 2階

## 第35回学術大会の御案内【錦織 千佳子(神戸大学医学研究科皮膚科学)】



2019年5月24日(金) - 25日(土)に、神戸国際会議場に於いて、第35回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会を開催させていただくことになりました。高齢化社会を迎えて皮膚がんは増加傾向にあります。それを踏まえて、学会のテーマは”皮膚がんの先制医療と高齢者での治療の限界のギャップを埋める”として、高齢化社会では避けて通れない皮膚がん対策を、“予防・攻めの先制医療” “個々のがんの特徴をとらえたオーダーメイド医療”を念頭に、一方で、合併症や全身症状に応じて対応せざるを得ない“高齢者医療の限界をどう切り開くか”といった観点を盛り込んで、症例を深度を高めて検討する機会を持てればと思います。

宿主の観点からは疾患罹患への感受性の違い、治療の有効性の差、治療の観点からはがんの特性に応じた治療薬の選択、宿主の治療薬への反応性の制御など、“宿主とがんのせめぎあい”をいかに我々にとって良い状況にコントロールするかが治療のゴールと言えます。“がんを見て人を診ず”ではなく、“がんを診て人も診て”を目指すがん診療の一助となればと思います、教室員一同プログラム案を練っております。シンポジウムは“高発がん性遺伝病” “高齢者における皮膚がん治療” “geneticsと皮膚がん” “光発がん”などをテーマに一般演題の中から適切な演題を募りたいと思っております。

神戸の5月は爽やかな新緑の六甲山をバックに山風と浜風が吹いて大変清々しい季節です。一人でも多くの学会員が神戸の地で熱くdiscussionできることを願っております。

## 皮膚がん予後統計委員会から【委員長: 加藤則人(京都府立医科大学大学院医学研究科皮膚科学)】

昨年の総会から、岩月啓氏前委員長が長年務めてこられた任務を引き継ぎました。メラノーマを担当する筑波大皮膚科の藤澤康弘先生、皮膚リンパ腫を担当する浜松医大皮膚科の島内隆寿先生、鹿児島大皮膚科の藤井一恭先生、NMSCを担当する京都府立医大皮膚科の浅井純先生とともに、皮膚悪性腫瘍の登録と予後調査を続けて行きたいと考えています。

昨今の個人情報保護法の改正、医学倫理審査委員会の承認に係る費用負担など、クリアしなければならない課題がいくつかありますが、頼りになる委員の皆さん、会員の方々のご理解とご協力のもと、一つずつ解決していく所存です。また、回答していただく先生方と委員の双方の省力化と費用の節約のため、Webを活用した調査を取り入れることも検討しています。

尹理事長が掲げる「皮膚腫瘍学の研究の進展とその診療レベル向上のために、本学会が基盤となってオールジャパンで皮膚悪性腫瘍に関する大規模臨床研究が展開」する基盤となるデータを提供すべく、委員が丸となって努力していきたいと考えております。

皆様には調査等でご協力をお願いすることが多いかと思いますが、よろしくお願いたします。



## 学会の現況

## 2017年度会員状況

(平成30年4月30日現在)

## 会員数

一般会員 1,401名

賛助会員 東レ(株)・マルホ(株)・  
(株)ミノファージェン製薬

名誉会員 19名

功労会員 38名

合計 1,461名

会費の回収率向上のために、昨年より学会ホームページ等でも、口座振替のご案内を差し上げておりました。そのため、口座振替し支払方法がないのか、との問い合わせをしばしばお受けします。従来の振込用紙による支払も選択いただけます。どちらの方法でも会費納入は可能であることが分かりやすいように、学会ホームページも改訂いたしました。学会ホームページの画面↓事務手続き↓会費納入方法について、という箇所に記載しておりますので、ご確認の程、よろしくお願いたします。

(文責) 事務局 福島 聡

事務局長の交代に伴い事務局は熊本大学大学院皮膚病態治療再建学分野内に移転しました。埼玉医大皮膚科に事務局があつた際は、緒方大先生がホームページやニュースレターの作成、各種事務連絡等、大変な仕事をこなしておられました。私には、とても同じような仕事はできません。慣れない点が多く、皆様にご迷惑をおかけすることがあると存じますが、なるべく円滑に学会運営が行われますように尽力いたします。どうぞ、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いたします。

事務局移転のお知らせ

事務局より